

第534回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和4年11月2日（水）午前11：00より

2. 開催場所 長野放送本社会議室

3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 8名
○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）

委員長 林 新一郎

副委員長 井口 弥寿彦

委員 浅井 隆彦

委員 加藤 恵美子

委員 笹本 正治

委員 瀧川 浩

委員 武重 正史

委員 南澤 光弥

○放送事業者側出席者名

外山 衆司 （代表取締役社長）

船木 正也 （常務取締役 編成業務・放送番組審議会担当）

太田 耕司 （常務取締役 報道制作・企画事業担当）

西條 彰浩 （報道制作局長）

早川 英治 （編成業務局長）

浅輪 清 （編成業務局次長 兼 考査部長
兼 放送番組審議会事務局長）

北澤 輝久 （編成業務局編成部長 兼 視聴者室長）

4. 議題

（1）番組審議

『 NBSフォーカス∞信州

3つの山小屋物語 ～北八ヶ岳・中ア・奥秩父～ 』

令和4年9月23日（金）夜7時00分～7時57分放送

- (2) 番組基準の一部変更について（答申）
- (3) 視聴者対応報告（令和4年10月分）
- (4) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・様々な表情を見せる高山の魅力といったものと、そこで山小屋を守る人々の個人的な人生というようなところの両面から非常に面白く描かれていた。
- ・長野県を形作っている山の魅力、自然の魅力、そこに関わる人たちの魅力をたっぷり伝えている番組だと感じた。
- ・本県の誇りである素晴らしい山の景観、高冷地の清らかな池、それぞれの山小屋から見える星空ということで、美しい映像の番組だった。
- ・金峰山は上空からの俯瞰した映像だとか、山小屋からの風景といったものが雄大でたいへん綺麗だった。グーグルアースを効果的に使っていて、山の位置だとか地形だとかも非常に分かりやすかった。
- ・八ヶ岳は神秘的な山小屋の様子や、山の中のオアシスのような池の様子、一転して比較的ミクロの視点から湧き水だとかサルオガセの群生、高山の植物などを見せて非常に面白かった。
- ・千畳敷は個人的には中学の時の登山を思い出すなどと思って見ていたら、そのことの紹介もあって南信出身の方は懐かしく見られたと思った。天候が余り良くなかった様子だが、逆にコントラストになって前の2つの山との対比で厳しい高山の自然というのが分かった。

- ・ライチョウやニホンザル、オコジョなど、たくましい動物の姿も印象的に描かれていた。
- ・山小屋の1つの大きな魅力は、山頂付近で里の光が遠い所なので、見られる星空は素晴らしいことを見せてくれた。
- ・グーグルアースからの立体図で登山コースを示したり、標高差や所要時間を案内したり、工夫を凝らして名物料理や美しい星空の映像を紹介したりと、3つの山小屋がバラバラな印象にならないように共通項目の軸を通して番組構成がまとめられていて分かりやすく楽しめた。
- ・山小屋の主人だからこそ紹介できる、とっておきの場所という発想も良かった。
- ・せっかく「龍の通り道」の紹介があったから亀甲池の亀甲の紹介も欲しかった。
- ・双子池ヒュッテで働く皆さんがご経歴を含めて個性的な人が多く、興味と関心をひかれた。
- ・山小屋の主人たちや関係者の方たちの発言を多くしていたようで、その方々の自然な表情や生の声が多めに聞けて良かった。
- ・山小屋の主人や山に従事している人たちの営みに関してはもっとフォーカスして欲しかった。苦労や心境、幸せや喜びはもう少し表しても良かった。
- ・山小屋の主人のこれまでの経歴、人生みたいなことも少しお聞きできれば面白いと思う反面、それはあまりに無粋でこのあたりのところでにじみ出ている所が丁度いいのかと思った。
- ・それぞれ個性的な山小屋の主人たちと長野放送の若いアナウンサー3人との交流もみずみずしく爽やかで、見ている視聴者が信州の山と自然に対して、より好感を持ってくれるような効果に繋がっている。

- ・様々な人たちを引き寄せる魅力というのが信州の山と自然にはあるのだと考えると、県民として誇らしくなるし、何か自信を持てるような気もする。
- ・山を大事に思ってみんなで守っていくとか、子孫に同じ感動を与えられるような環境作りを残していくなどと答えていて、自分たちが惹きつけられた魅力を守って引き継いでいこうという思いがストレートに頼もしく伝わってきた。
- ・山頂に至る美しい雄大な景色やパノラマ、高山ならではの動植物と自然の映像を中心としたものを縦糸に3つの山小屋の主人たちの多様な人柄とか、山小屋を維持していくという思い入れとか、訪れる人たちの思いを横糸に紡いで織りなす番組になっていた。
- ・松山アナウンサーが雲海上の富士山を眺める面持ちが印象的で、感動がこちらに伝わるような思いがして、その辺りの演出も良かった。
- ・毛織アナウンサーが気取らずに肩の力を抜いたコミュニケーションを取っていたので、山小屋の皆さんも安心していいお話をしていただいたのではないかと感じた。
- ・主人公たちの自然な表情や、てらいのない発言みたいなものを聞いて良かった。
- ・山小屋にはそれぞれ個性があって魅力的な宿泊所で、単なる山登りのための臨時の画一的なインフラとは、ちょっと違うということを知ることが出来た。
- ・初心者を山にいざなうような番組に仕上がっていた。
- ・山小屋に泊まりがけで山頂を目指すという山登りの魅力を感じて親近感が湧いた。
- ・山小屋に泊まってみたいという気にもなったし、できれば過去2回の番組も見られるなら見てみたいと素直に思った。

- ・山岳地帯にもそれほど大きな労力をかけずにドローンを持ち込めるような状況になったというメリットは大きいと感じた。
- ・山小屋に働く皆さんという表題とのマッチングでは、山小屋の生活や環境をもう少し掘り下げてもらえると良かった。
- ・美しい景色を映像としてお届けしたいのか、山小屋そのものの楽しみ方なのか、山小屋で働く人たちに焦点を当てているのかがよく分からない。映像や番組を通じて県民に何を訴えたいのか、ターゲットがどこにあるのかよく分からないというのに繋がる。
- ・小屋にはそれぞれの歴史があって誰が建てたのかとか、なぜこうなっているのだろうかという所に焦点を当てていたら、いろんな意味で興味をもっと持てた。
- ・コロナを通じて、山の場合はそんなに登山者が減っていない場所もあるし、今後どうなっていくのかといったことを考えさせられた。
- ・日帰りコースや、山小屋を起点に1泊コース、2泊コースなど標準的な初心者編や、中級者編という形でコースの紹介をすれば、もうちょっと実践的だった。
- ・環境問題が社会全体でクローズアップされているので、山小屋における環境対策も触れてほしかった。
- ・水の供給や廃棄物はどうしているのかは、気になりながら見ていた。
- ・天水をどうやって集め、どのように節約しているかを紹介すれば面白いと思う。
- ・テントの掃除はどうしているのだろうか、来た人が安心して泊まってもらうための工夫も聞きたかった。
- ・山岳遭難の教訓を生かして西駒山荘が造られた説明が少なかった。それをしっかり示してこの小屋ができた放送すれば、石室小屋の重要性が分かった。

(2) 番組基準の一部変更について

長野放送「番組基準」が民間放送連盟の定める「放送基準」に準拠していること、その「放送基準」が改正されること（令和5年4月1日施行）を資料に基づき事務局が説明、改正部分について意見を求めた。その結果、長野放送の「番組基準」も民放連「放送基準」と同じく、当該部分を改正することについて番組審議会から「妥当である」との答申があった。

(3) 視聴者対応報告

資料に基づき、令和4年10月分の視聴者対応について編成局より報告を行った。

(4) その他

配布資料

- ・第533回番組審議会（令和4年10月）議事録
- ・「長野放送番組基準」の一部変更について
- ・視聴者対応報告資料（令和4年10月分）
- ・BPO報告（NO.244）
- ・民間放送（第2208号）
- ・モニターレポート

以上